

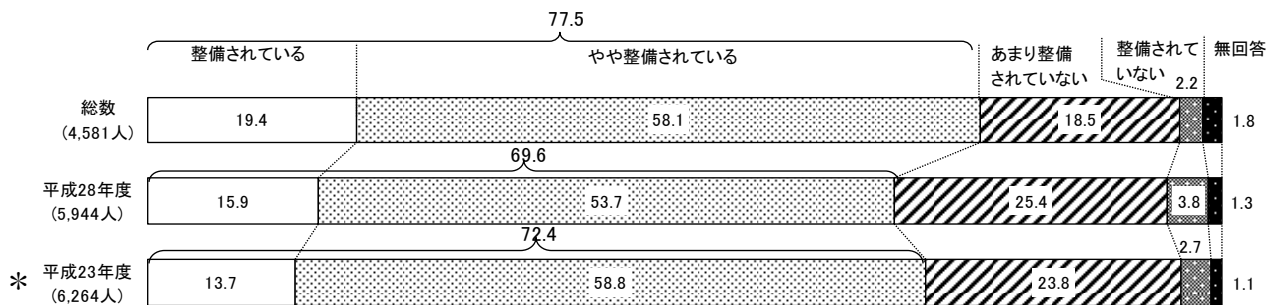
第5章 まちの中での情報提供

1 まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識－過去調査との比較

平成28年度調査よりも「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた割合が、7.9ポイント増加

外出したいときに、行きたい建物や施設への案内標示や駅などの乗り換えの誘導標示など、まちの中の標示や説明がわかりやすく整備されているかを聞いたところ、「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた割合は77.5%で、平成28年度調査と比べて7.9ポイント増加している。(図Ⅱ-5-1)

図Ⅱ-5-1 まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識－過去調査との比較

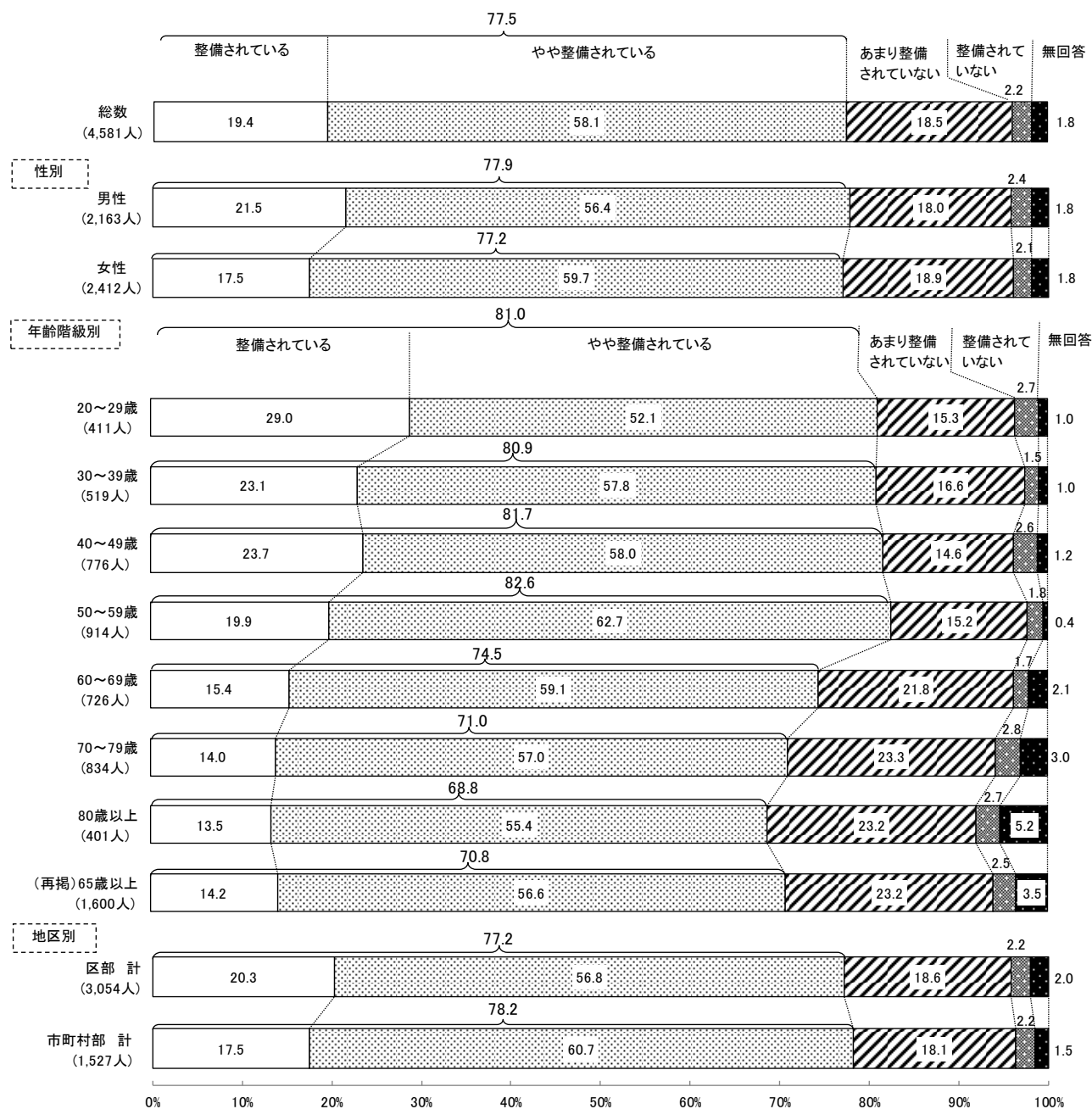


(1) まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識－性別、年齢階級別、地区別

65歳以上では、「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた割合が、約7割

まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識を年齢階級別にみると、65歳以上では「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた割合が70.8%で、総数(77.5%)に比べて、6.7ポイント低くなっている。(図Ⅱ-5-2)

図Ⅱ-5-2 まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識－性別、年齢階級別、地区別

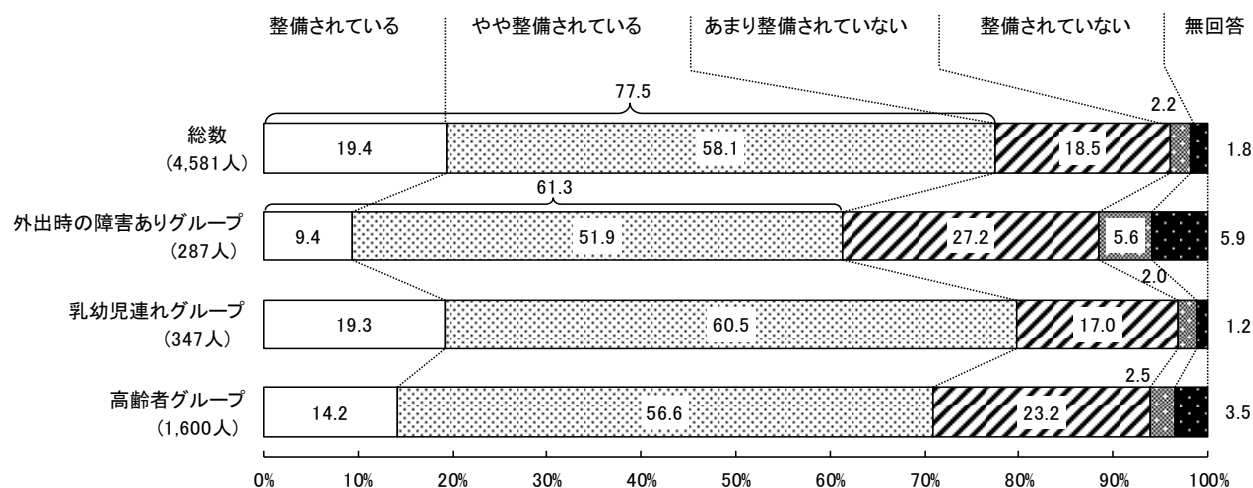


(2) まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識－外出時グループ別

「外出時の障害ありグループ」は、「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた割合が、61.3%

まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」は、「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた割合が61.3%で、総数に比べて16.2ポイント低くなっている。(図Ⅱ-5-3)

図Ⅱ-5-3 まちの中の案内標示などの整備状況に関する意識－外出時グループ別



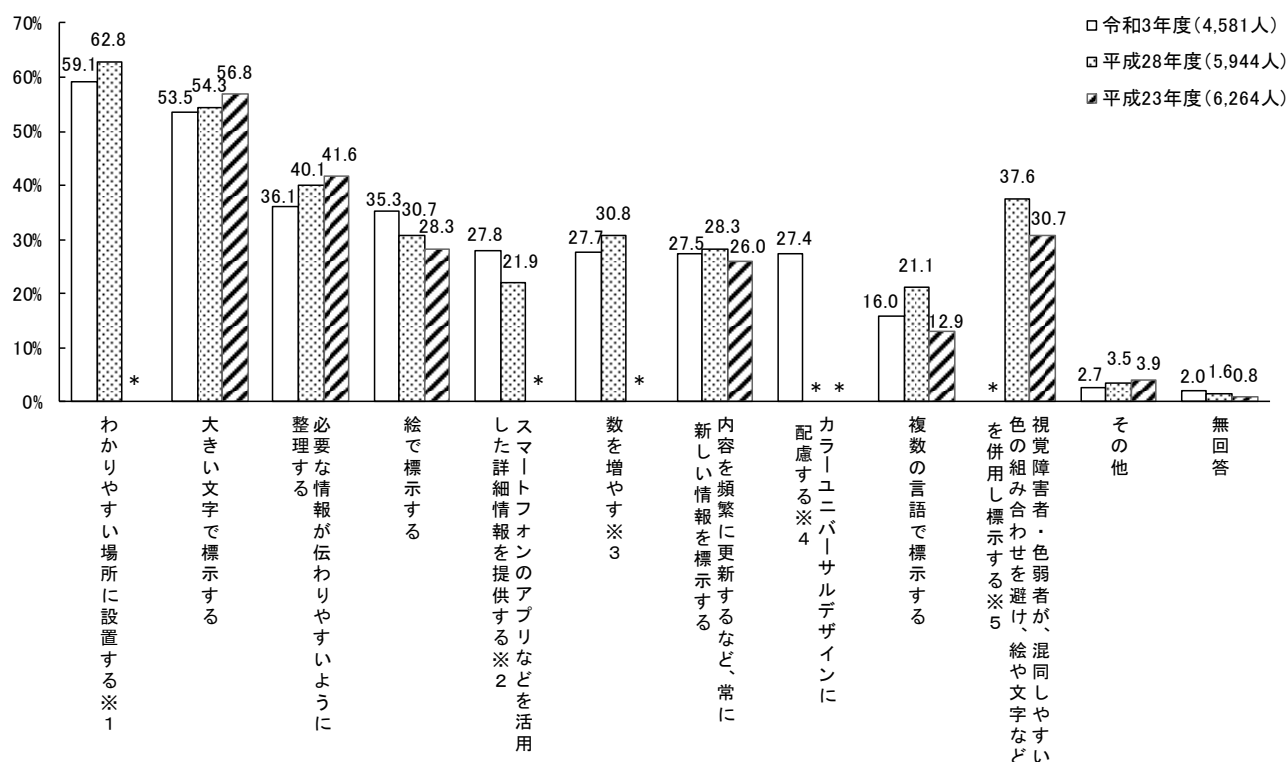
2 まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいもの〔複数回答〕

一過去調査との比較

まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいものを聞いたところ、「わかりやすい場所に設置する」の割合が 59.1%で最も高く、次いで「大きい文字で標示する」が 53.5%となっている。（図Ⅱ-5-4）（図Ⅱ-5-4）

図Ⅱ-5-4 まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいもの〔複数回答〕

一過去調査との比較



（注1）※1～3は、平成23年度調査では選択肢を設けていなかった。

（注2）※4は、平成28年度調査以前では選択肢を設けていなかった。

（注3）※5は、令和3年度調査では選択肢を設けていない。

(1) まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいもの〔複数回答〕

－性・年齢階級別、地域別

20代では、「スマートフォンのアプリなどを活用した詳細情報を提供する」の割合が他の年齢階級に比べて最も高く、4割超

まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいものを年齢階級別にみると、20代では、「スマートフォンのアプリなどを活用した詳細情報を提供する」の割合が43.1%で最も高く、すべての年齢階級の中で最も高くなっている。

65歳以上では、「わかりやすい場所に設置する」の割合が66.5%で最も高く、次いで「大きい文字で標示する」が65.0%となっている。(表Ⅱ-5-1)

表Ⅱ-5-1 まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいもの〔複数回答〕

－性別、年齢階級別、地域別

		総数	絵で 標示する	大きい文字で 標示する	カラーユニバーサル デザインに 配慮する	に必要 な情報 が伝わり やすいよう	複数 の言語で 表記する	スマー トフォン のアプリ などを 活用した 詳細情報 を提供する	わかり やすい場 所に設 置する	数を増 やす	内容に 新しい情 報を標示 するなど、 常に新 しい情報 を標示する	その他	無回 答
総数		100.0 (4,581)	35.3	53.5	27.4	36.1	16.0	27.8	59.1	27.7	27.5	2.7	2.0
性別	男	100.0 (2,163)	35.2	48.9	26.3	33.3	15.4	31.4	57.0	29.4	25.8	3.0	1.8
	女	100.0 (2,412)	35.4	57.8	28.4	38.6	16.5	24.6	61.2	26.3	29.1	2.4	2.2
年 齢 階 級 別	20～29歳	100.0 (411)	37.5	37.0	25.8	30.4	17.0	43.1	41.6	28.5	27.3	1.2	1.5
	30～39歳	100.0 (519)	40.7	41.2	31.2	34.1	17.7	40.8	54.3	22.5	28.7	3.3	1.2
	40～49歳	100.0 (776)	34.8	43.4	29.3	37.0	15.9	35.3	53.5	23.5	27.3	4.4	1.3
	50～59歳	100.0 (914)	33.3	55.1	33.5	37.7	17.0	30.9	59.7	24.9	28.0	2.0	1.2
	60～69歳	100.0 (726)	37.1	59.1	27.4	37.7	17.1	25.5	66.4	30.6	29.5	3.0	1.9
	70～79歳	100.0 (834)	32.6	66.3	22.2	37.2	14.5	13.4	68.1	33.9	26.9	1.8	2.8
	80歳以上	100.0 (401)	33.9	65.8	17.5	34.2	11.5	8.2	60.8	30.4	22.9	3.5	5.5
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,600)	33.6	65.0	21.8	36.4	14.3	14.8	66.5	32.7	26.0	2.6	3.4
	地 域 別	区部 計	100.0 (3,054)	35.1	52.9	27.4	36.7	16.1	27.4	58.1	27.5	27.1	2.8
区中央部		100.0 (321)	34.9	44.2	28.7	41.4	17.8	26.2	60.1	31.8	28.0	4.0	1.2
区南部		100.0 (394)	34.5	59.1	28.2	34.8	17.8	26.6	60.2	27.2	25.1	3.8	2.3
区西南部		100.0 (440)	35.5	47.5	28.4	42.5	18.6	29.8	57.5	30.9	25.7	1.6	1.4
区西部		100.0 (426)	35.7	51.6	27.7	34.7	15.5	22.5	55.6	21.8	27.5	3.5	3.1
区西北部		100.0 (703)	33.3	51.6	27.0	35.0	14.7	28.4	57.3	25.5	27.3	3.0	2.0
区東北部		100.0 (350)	34.3	58.6	21.7	33.7	13.4	27.7	58.0	24.0	26.6	1.7	3.4
区東部		100.0 (420)	38.8	57.9	29.8	36.2	16.2	29.8	58.8	32.9	29.5	1.9	1.2
別		市町村部 計	100.0 (1,527)	35.6	54.9	27.4	35.0	15.6	28.6	61.2	28.3	28.2	2.6
	西多摩	100.0 (121)	38.0	62.0	16.5	33.9	12.4	34.7	60.3	29.8	25.6	－	－
	南多摩	100.0 (521)	33.8	52.8	28.2	35.1	17.7	27.8	61.2	28.2	29.0	3.1	2.3
	北多摩西部	100.0 (281)	38.8	55.2	25.6	34.9	15.3	28.1	58.7	29.9	27.8	2.1	2.8
	北多摩南部	100.0 (349)	34.7	54.4	29.2	35.8	13.8	26.9	61.0	26.4	25.2	2.6	1.7
	北多摩北部	100.0 (255)	－	56.1	30.2	34.1	15.7	0.0	64.7	28.6	32.5	3.5	1.2

(2) まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいもの〔複数回答〕

ー外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

特に力を入れてもらいたいものを外出時の障害の有無別にみると、障害がある人は、「わかりやすい場所に設置する」の割合が 59.6%で最も高く、次いで、「大きい文字で標示する」が 57.8%となっている。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「大きい文字で標示する」の割合が 56.0%で最も高く、次いで、「わかりやすい場所に設置する」が 52.2%となっている。(表Ⅱ-5-2)

表Ⅱ-5-2 まちの中の案内標示などを整備する上で、特に力を入れてもらいたいもの〔複数回答〕

ー外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

		総 数	絵 で 標 示 す る	大 き い 文 字 で 標 示 す る	カ ラ ー ユニ バー サル デ ザ イン に 配 慮 す る	に 必 要 な 情 報 が 伝 わ り や す い よ う に 整 理 す る	複 数 の 言 語 で 表 記 す る	ス マ ー ト フ ォ ン の ア プ リ な ど を 活 用 し た 詳 細 情 報 を 提 供 す る	わ か り や す い 場 所 に 設 置 す る	数 を 増 や す	内 容 を 頻 繁 に 更 新 す る な ど、 常 に 新 しい 情 報 を 標 示 す る	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (4,581)	35.3	53.5	27.4	36.1	16.0	27.8	<u>59.1</u>	27.7	27.5	2.7	2.0
外 出 時 の 障 害 別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (287)	34.1	<u>57.8</u>	17.1	31.0	11.8	13.6	<u>59.6</u>	30.0	24.0	4.9	6.3
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (38)	28.9	50.0	5.3	26.3	2.6	7.9	42.1	18.4	15.8	10.5	13.2
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (78)	35.9	60.3	16.7	30.8	12.8	19.2	55.1	20.5	24.4	3.8	7.7
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (167)	37.1	56.9	17.4	32.9	10.2	12.6	56.3	35.3	26.9	5.4	6.0
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (85)	40.0	52.9	15.3	29.4	14.1	11.8	60.0	34.1	24.7	7.1	4.7
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (109)	33.9	49.5	15.6	26.6	11.0	9.2	56.0	33.9	24.8	6.4	6.4
	外出時に障害がない	100.0 (4,259)	35.5	53.4	28.2	36.5	16.3	28.8	59.2	27.7	27.8	2.6	1.6
の 由 外 に 出 必 要 よ 時 性 の 支 何 有 援 無 か 別 理 解	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (209)	33.0	<u>56.0</u>	19.1	36.4	12.0	16.3	<u>52.2</u>	27.8	25.4	7.2	7.2
	必要としない	100.0 (4,328)	35.5	53.7	27.9	36.3	16.2	28.4	59.6	27.9	27.7	2.5	1.6

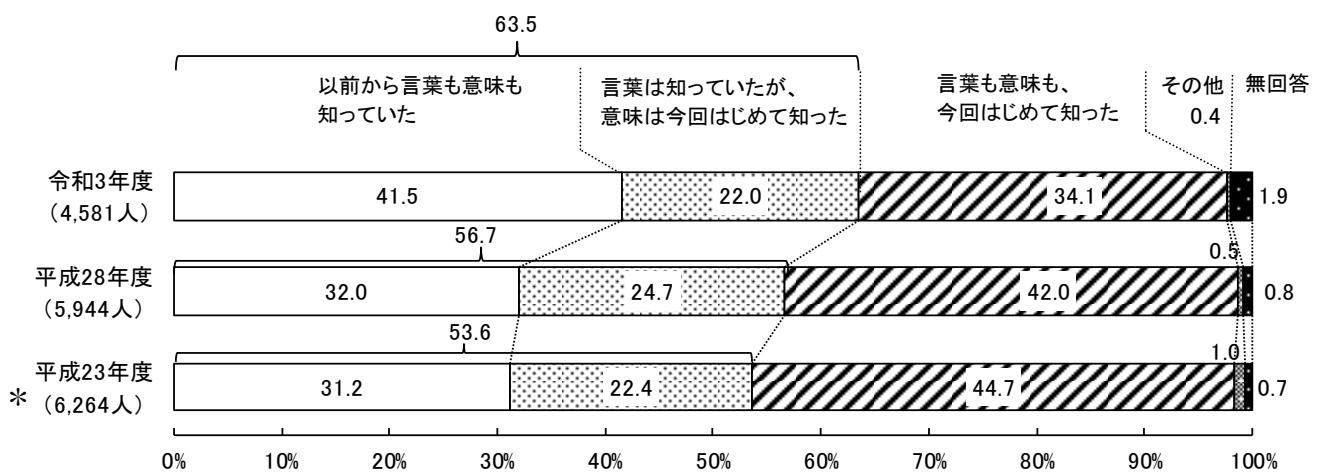
第6章 ユニバーサルデザイン

1 ユニバーサルデザインの認知度ー過去調査との比較

「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、6割超

「ユニバーサルデザイン」という言葉や意味を知っているかどうか聞いたところ、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、63.5%で、平成28年度と比べて6.8ポイント増加している。（図Ⅱ-6-1）

図Ⅱ-6-1 ユニバーサルデザインの認知度ー過去調査との比較



(注)ユニバーサルデザインについて、調査票では下記のとおり言葉の意味を案内している。

ユニバーサルデザインとは…

年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、はじめからできるだけ多くの人々が利用可能なように都市や生活環境をデザインすることです。その対象はハード（都市施設や製品など）からソフト（教育や情報、サービスなど）に至るまで多岐にわたっています。

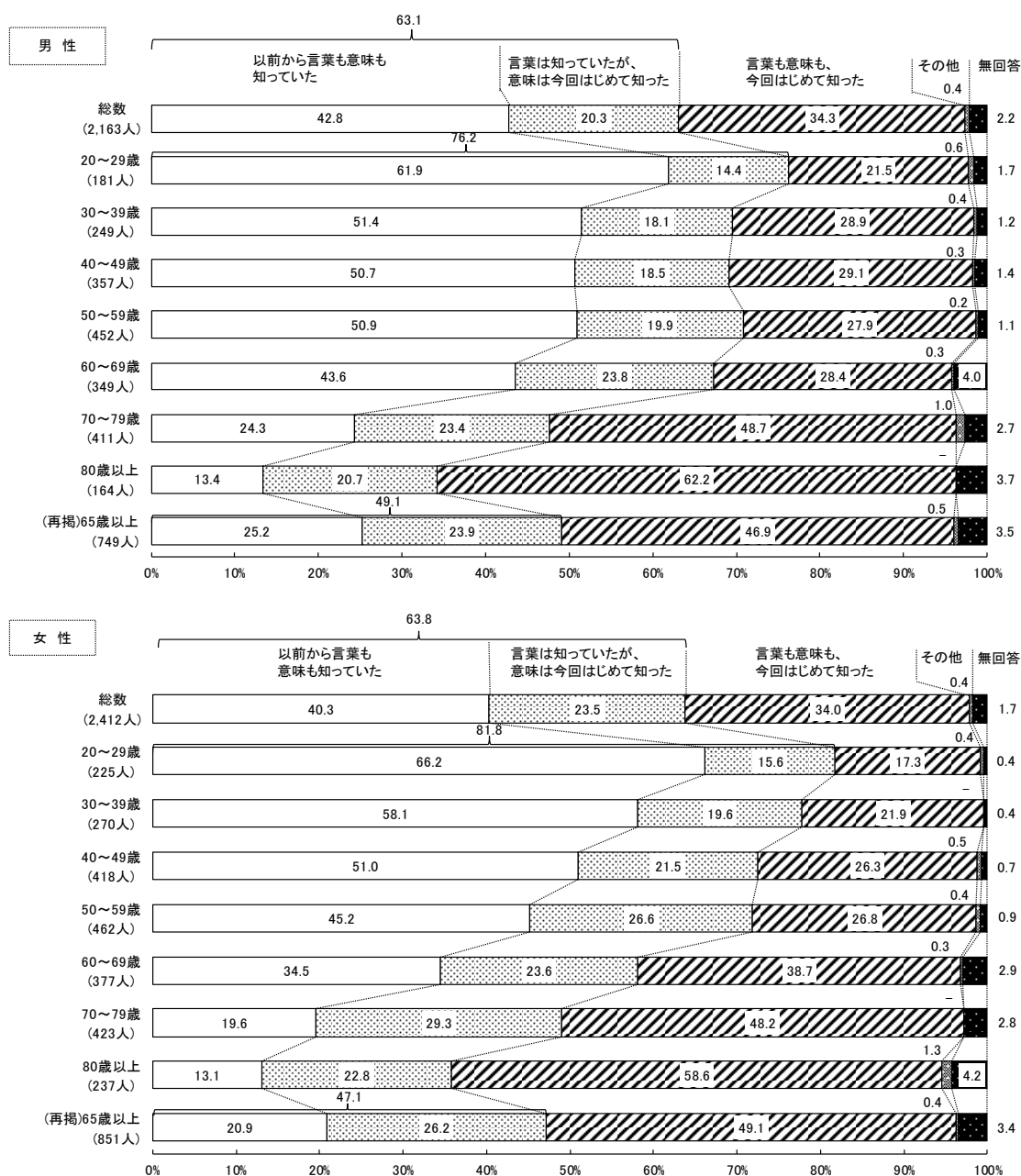
(1) ユニバーサルデザインの認知度－性・年齢階級別

20代では、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、男性は76.2%、女性は81.8%

ユニバーサルデザインの認知度を性別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、男性63.1%、女性63.8%となっている。

性・年齢階級別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、男女とも20代が最も高く、男性76.2%、女性81.8%で、それぞれの総数と比べて、10ポイント以上高くなっている。一方、65歳以上では、男性は49.1%、女性は47.1%となっている。(図Ⅱ-6-2)

図Ⅱ-6-2 ユニバーサルデザインの認知度－性・年齢階級別



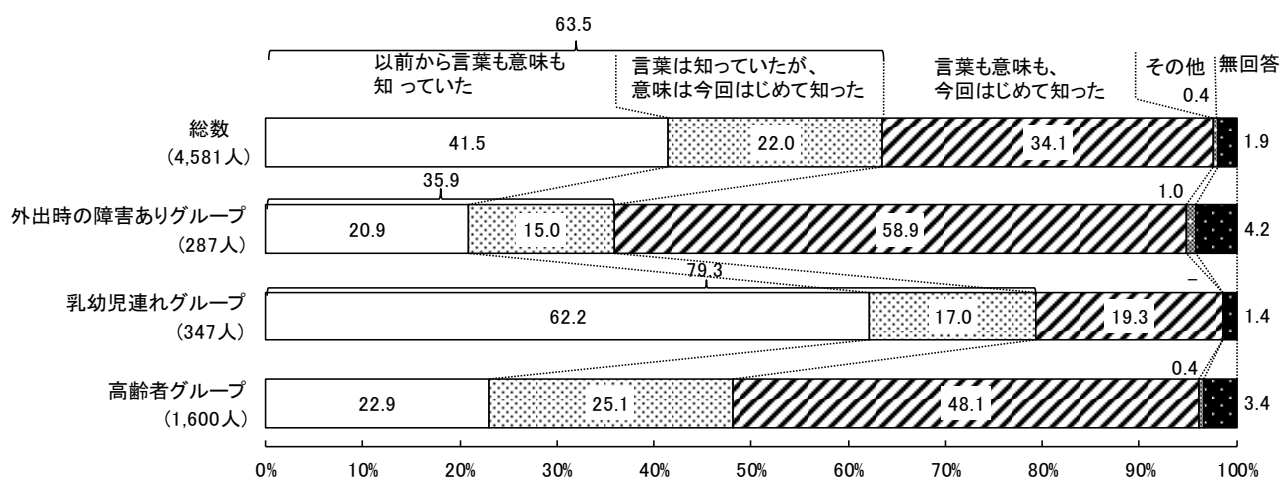
(2) ユニバーサルデザインの認知度－外出時グループ別

「乳幼児連れグループ」では、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合が約 8 割

ユニバーサルデザインの認知度を外出時グループ別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、「外出時の障害ありグループ」が 35.9%で、総数（63.5%）に比べて、27.6 ポイント低くなっている。

「乳幼児連れグループ」は 79.3%で、総数（63.5%）に比べて、15.8 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-6-3）

図Ⅱ-6-3 ユニバーサルデザインの認知度－外出時グループ別



第7章 ソフト面でのバリアフリー（心のバリアフリー）

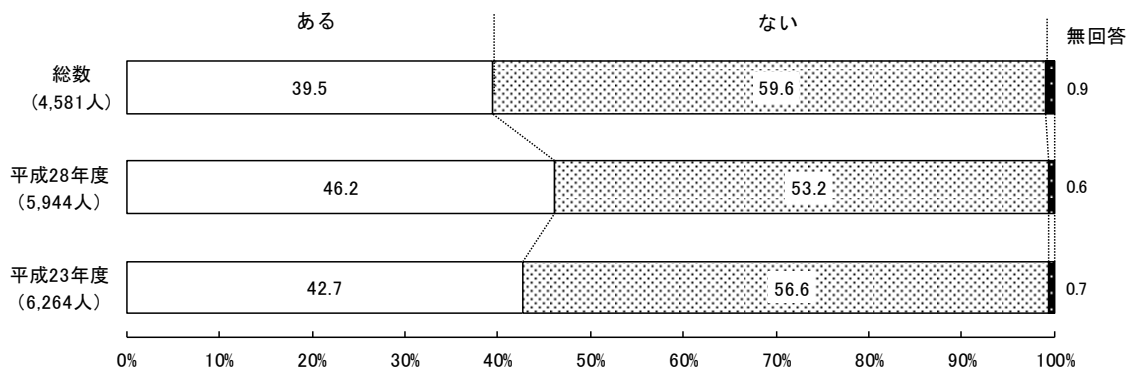
1 外出時に困っている人に手助けをした経験

（1）外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無－過去調査との比較

「外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりしたことがある」割合は 39.5%であり、平成 28 年度調査（46.2%）よりも 6.7 ポイント減少

調査基準日（令和 3 年 10 月 13 日）から過去 1 年くらいの間に、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」人の割合は 39.5%で、平成 28 年度調査と比べて 6.7 ポイント減少している。（図Ⅱ-7-1）

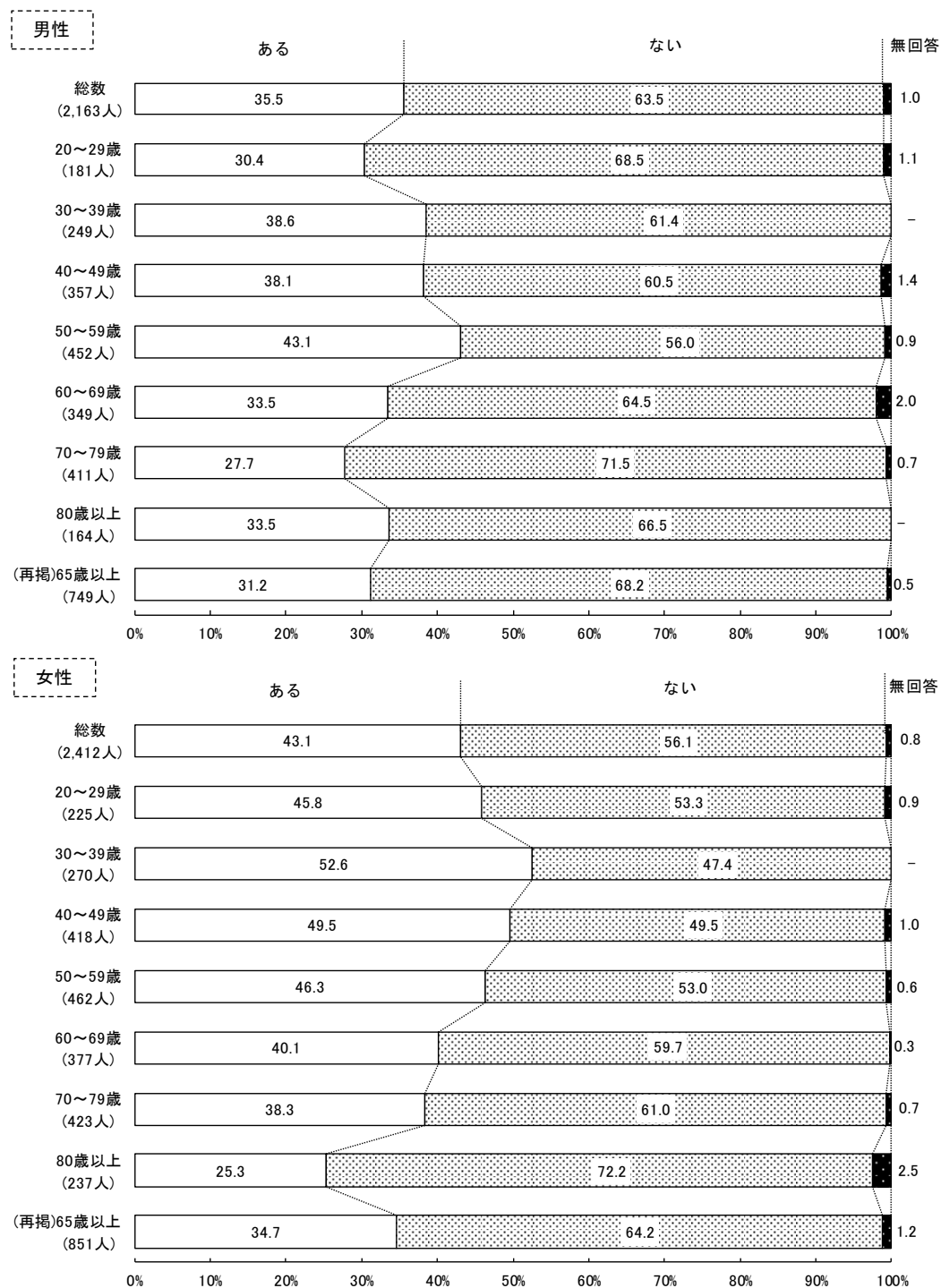
図Ⅱ-7-1 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無－過去調査との比較



ア 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一性・年齢階級別

外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無を性別にみると、「ある」人の割合は、男性 35.5%、女性 43.1%となっている。性・年齢階級別にみると、「ある」人の割合が最も高いのは、男性では 50 代で 43.1%、女性では 30 代で 52.6%となっている。（図Ⅱ-7-2）

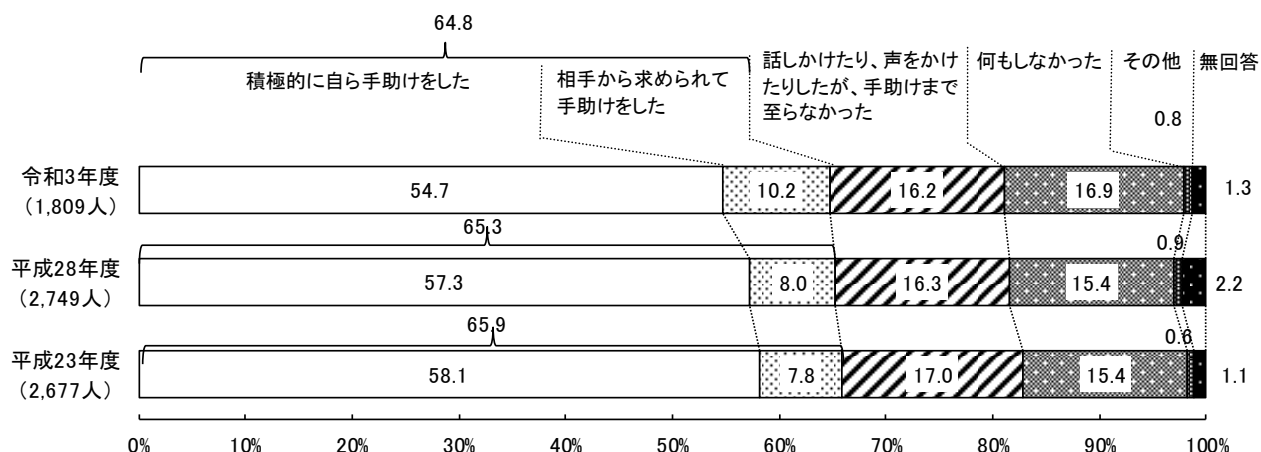
図Ⅱ-7-2 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一性・年齢階級別



（２）困っている人を見かけたときに自分がとった行動－過去調査との比較

過去１年くらいの間に、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがある人（１,８０９人）に、その時どのような行動をとったかを聞いたところ、「積極的に自ら手助けをした」人の割合は５４.７％で、平成２８年度調査と比べて２.６ポイント減少している。また、「積極的に自ら手助けをした」人（５４.７％）と「相手から求められて手助けをした」人（１０.２％）を合わせた割合は、６４.８％となっている。（図Ⅱ－７－３）

図Ⅱ－７－３ 困っている人を見かけたときに自分がとった行動－過去調査との比較



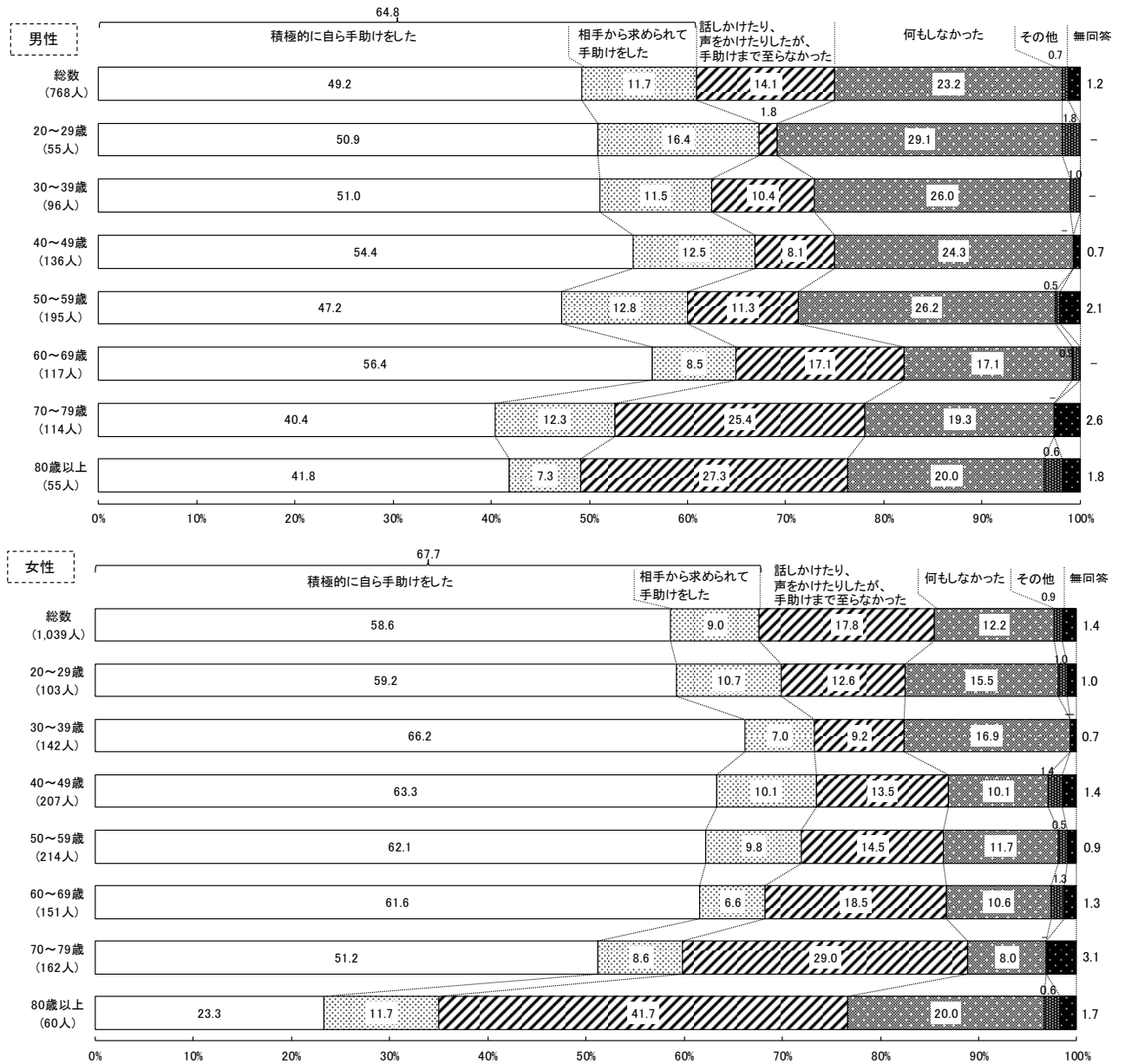
ア 困っている人を見かけたときに自分がとった行動一性・年齢階級別

「積極的に自ら手助けをした」の割合は、男性 49.2%、女性 58.6%

困っている人を見かけたときに自分がとった行動を性別でみると、「積極的に自ら手助けをした」人の割合は、男性 49.2%、女性 58.6%で、女性の方が 9.4 ポイント高くなっている。

(図Ⅱ-7-4)

図Ⅱ-7-4 困っている人を見かけたときに自分がとった行動一性・年齢階級別

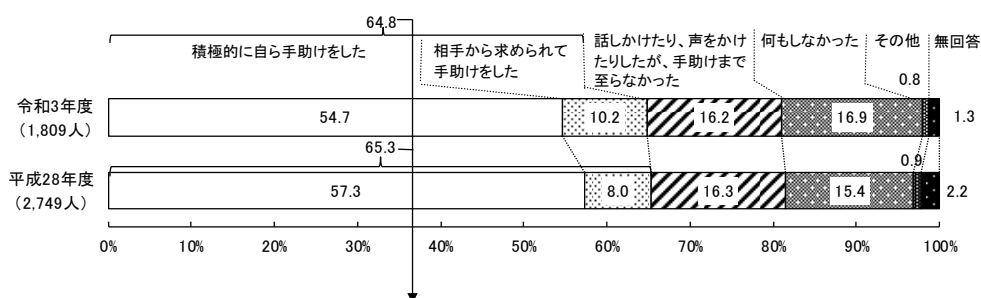


(3) 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕－平成 28 年度調査との比較

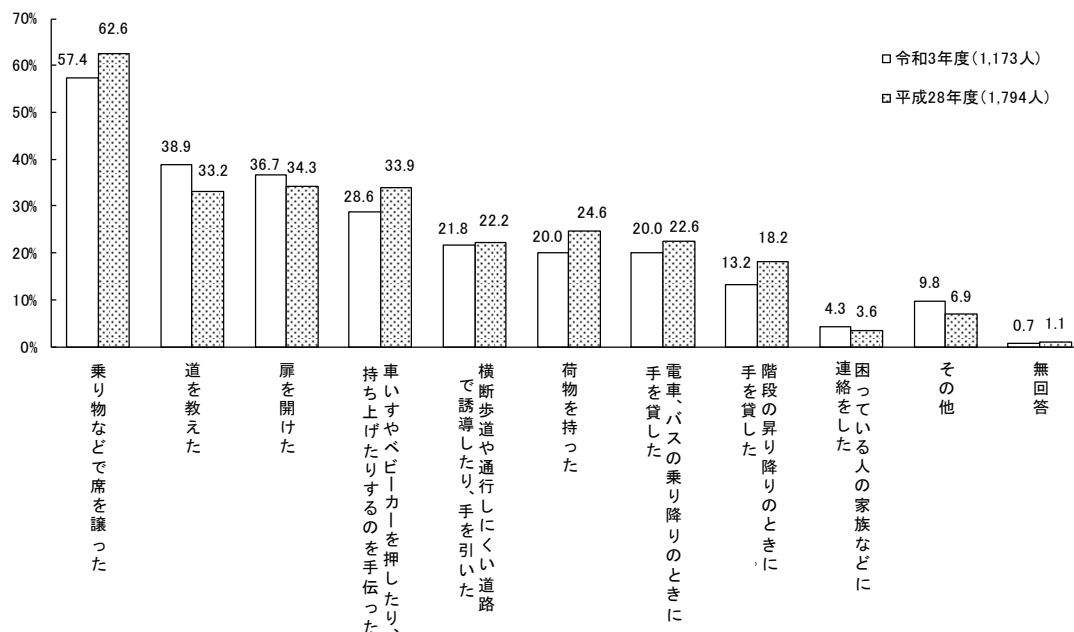
「乗り物などで席を譲った」の割合は、57.4%

過去 1 年くらいの間に、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがある人（1,809 人）のうち、「積極的に自ら手助けをした人（54.7%、989 人）」と「相手から求められて手助けをした人（10.2%、184 人）」に、どのような手助けを行ったか聞いたところ、「乗り物などで席を譲った」の割合が 57.4%で最も高く、次いで「道を教えた」が 38.9%、「扉を開けた」36.7%、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った」28.6%となっている。（図Ⅱ-7-7、図Ⅱ-7-8）

図Ⅱ-7-7 困っている人を見かけたときに自分がとった行動－平成 28 年度調査との比較



図Ⅱ-7-8 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕－平成 28 年度調査との比較



（注）「その他」の意見（計 113 件）としてあげられた主なものは、以下のとおりである。

なお、1 人の回答に複数の内容が含まれている場合は、内容ごとに集計している。

- ・転倒した人を起こしたり、介助した（24 件）
- ・救急車又は警察を呼んだ、係員に知らせた（17 件）
- ・目的地まで手を貸し、案内した（14 件）
- ・自転車が転倒したのを起こした（10 件）
- ・買い物の手助けをした（6 件）

ア 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕

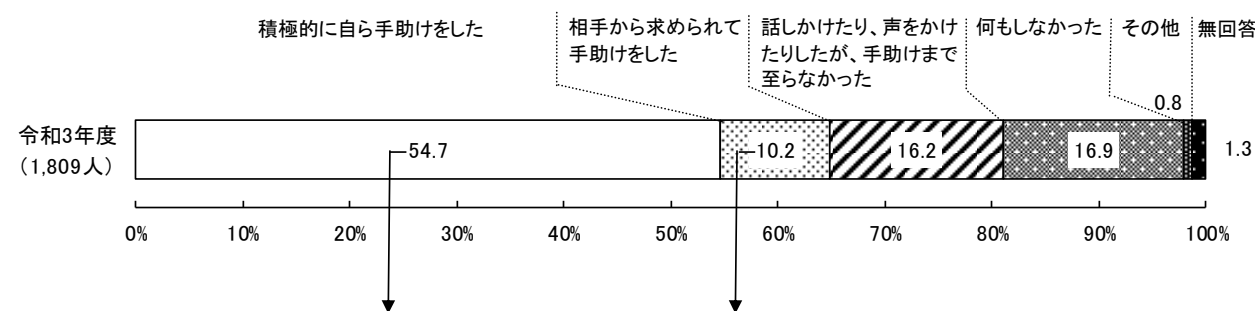
－外出先で困っている人を見かけたときの行動別

積極的に自ら手助けをした人では、「乗り物などで席を譲った」の割合が最も高く、60.4%
相手から求められて手助けをした人では、「道を教えた」の割合が最も高く、56.5%

困っている人にした手助けの内容を、積極的に自ら手助けをした人と相手から求められて手助けをした人に分けてみると、積極的に自ら手助けをした人では、「乗り物などで席を譲った」の割合が60.4%で最も高く、相手から求められて手助けをした人（41.3%）に比べて、19.1ポイント高くなっている。

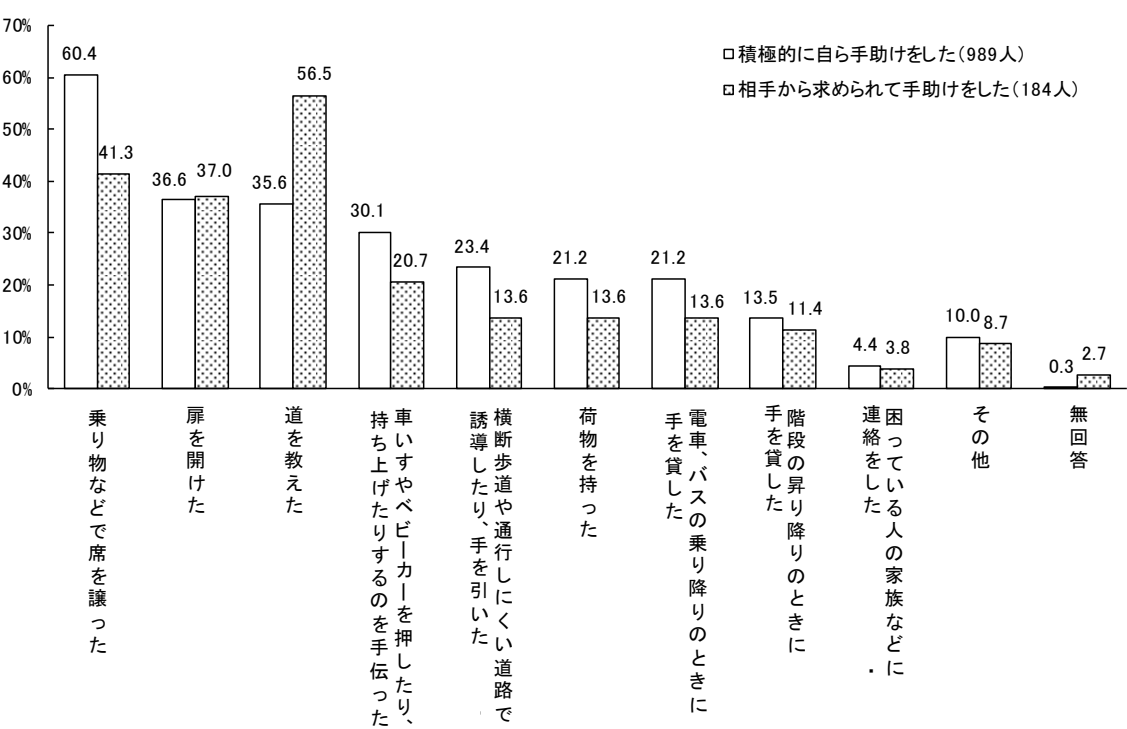
一方、相手から求められて手助けをした人では、「道を教えた」の割合が56.5%で最も高く、積極的に自ら手助けをした人（35.6%）に比べて、20.9ポイント高くなっている（図Ⅱ-7-9、図Ⅱ-7-10）

図Ⅱ-7-9 外出先で困っている人を見かけたときの行動



図Ⅱ-7-10 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕

－外出先で困っている人を見かけたときの行動別



イ 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕一性・年齢階級別

男女ともに「乗り物などで席を譲った」が最も高く、5割超

困っている人にした手助けの内容を性別でみると、男女とも「乗り物などで席を譲った」の割合が最も高く（男性 58.1%、女性 56.9%）になっている。次いで、男性は、「扉を開けた」が 34.6%、女性は、「道を教えた」が 42.2%となっている。（表Ⅱ-7-1）

表Ⅱ-7-1 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕一性・年齢階級別

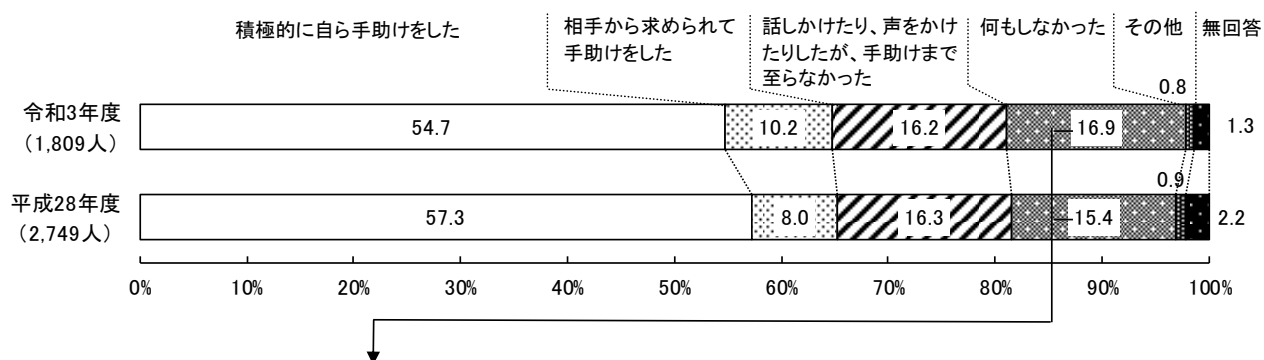
	総 数	荷 物 を 持 っ た	横 断 歩 道 や 通 行 し に く い 道 路 で 誘 導	階 段 の 昇 り 降 り の と き に 手 を 貸 し た	電 車 、 バ ス の 乗 り 降 り の と き に 手 を 貸 し た	車 い す や ベ ビ ー カ ー を 押 し た り 、 持 ち 上 げ た り す る の を 手 伝 わ せ た	乗 り 物 な ど で 席 を 譲 っ た	道 を 教 え た	扉 を 開 け た	困 っ て い る 人 の 家 族 な ど に 連 絡 を し た	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,173)	20.0	21.8	13.2	20.0	28.6	57.4	38.9	36.7	4.3	9.8	0.7
男	100.0 (468)	21.6	22.0	13.5	21.4	28.4	58.1	34.0	34.6	4.7	8.5	1.1
20～29歳	100.0 (37)	16.2	18.9	5.4	13.5	16.2	62.2	45.9	29.7	8.1	8.1	0.0
30～39歳	100.0 (60)	21.7	15.0	0.0	13.3	28.3	61.7	33.3	41.7	5.0	5.0	1.7
40～49歳	100.0 (91)	18.7	16.5	13.2	20.9	35.2	61.5	34.1	49.5	4.4	9.9	1.1
50～59歳	100.0 (117)	20.5	19.7	15.4	22.2	27.4	59.8	38.5	38.5	3.4	7.7	0.9
60～69歳	100.0 (76)	23.7	25.0	23.7	26.3	30.3	51.3	26.3	25.0	5.3	9.2	1.3
70～79歳	100.0 (60)	25.0	41.7	18.3	26.7	33.3	55.0	31.7	21.7	3.3	10.0	1.7
80歳以上	100.0 (27)	29.6	18.5	7.4	22.2	11.1	51.9	25.9	14.8	7.4	11.1	0.0
(再掲)65歳以上	100.0 (126)	24.6	31.7	19.0	25.4	27.8	54.8	31.7	21.4	5.6	9.5	1.6
女	100.0 (703)	18.9	21.8	14.2	19.1	28.9	56.9	42.2	38.0	4.1	10.7	0.4
20～29歳	100.0 (72)	16.7	15.3	8.3	20.8	26.4	65.3	44.4	30.6	1.4	5.6	0.0
30～39歳	100.0 (104)	16.3	14.4	21.2	11.5	27.9	62.5	45.2	46.2	2.9	15.4	0.0
40～49歳	100.0 (152)	17.8	17.8	10.5	13.2	28.9	52.6	42.1	40.8	4.6	11.2	0.0
50～59歳	100.0 (154)	16.9	20.8	14.9	19.5	30.5	51.3	42.9	45.5	4.5	11.7	0.6
60～69歳	100.0 (103)	18.4	35.0	11.7	21.4	26.2	60.2	39.8	27.2	4.9	8.7	0.0
70～79歳	100.0 (97)	23.7	27.8	17.5	26.8	35.1	55.7	37.1	32.0	4.1	8.2	1.0
80歳以上	100.0 (21)	42.9	23.8	19.0	42.9	14.3	61.9	52.4	28.6	9.5	14.3	4.8
(再掲)65歳以上	100.0 (164)	26.2	29.3	16.5	28.7	31.1	61.0	40.2	31.7	4.9	8.5	1.2

(4) 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由〔複数回答〕－平成 28 年度調査との比較

平成 28 年度調査よりも「手助けをしていいものかどうかわからなかった」割合が、
8.8 ポイント増加

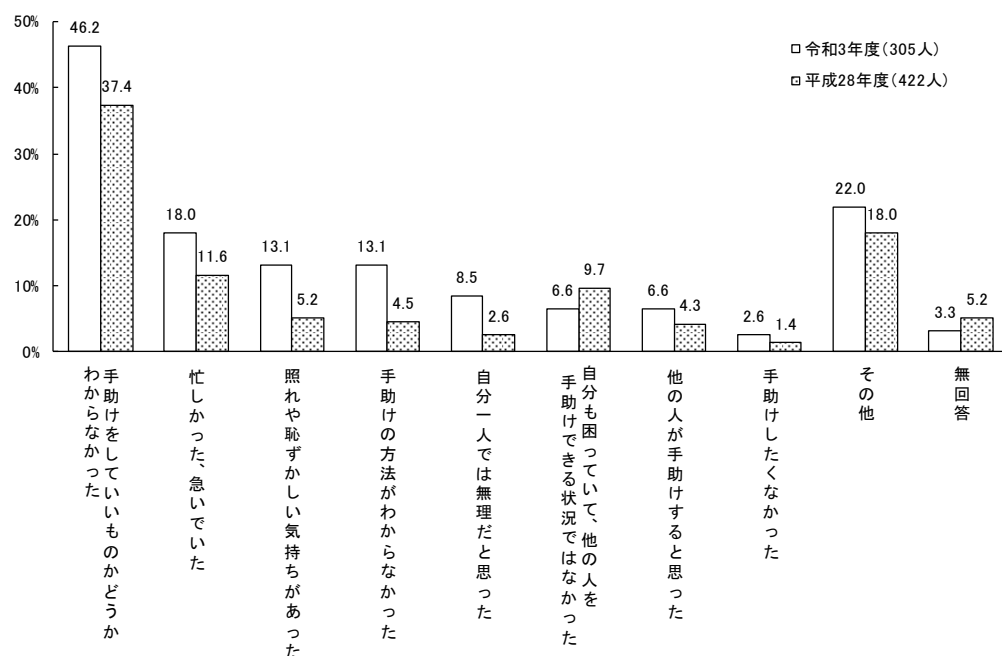
過去 1 年くらいの間に、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがある人（1,809 人）のうち、「何もしなかった」人（16.9%、305 人）に、何もしなかった理由を聞いたところ、「手助けをしていいものかどうかわからなかった」の割合が 46.2%で、平成 28 年度調査と比べて 8.8 ポイント増加している。（図Ⅱ-7-11、図Ⅱ-7-12）

図Ⅱ-7-11 外出先で困っている人を見かけたときの行動－平成 28 年度調査との比較



図Ⅱ-7-12 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由〔複数回答〕

－平成 28 年度調査との比較



（注 1）「その他」の意見（計 62 件）としてあげられた主なものは、以下のとおりである。

- ・すでに他の人が手助けをしていた（16 件）・手助けの必要がなかった（7 件）
- ・自分も病気や障害があり、手助けできなかった（5 件）・コロナ過で嫌がられると思った（4 件）

ア 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由－性・年齢階級別

男女ともに「手助けをしていいものかどうかわからなかった」の割合が4割超

困っている人を見かけたときに何もしなかった理由を性別にみると、男女ともに「手助けしていいものかどうかわからなかった」の割合が、最も高く（男性46.6%、女性45.7%）なっている。（表Ⅱ-7-2）

表Ⅱ-7-2 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由－性・年齢階級別

	総数	忙しかった、急いでいた	自分も困っている状況ではなかった	照れや恥ずかしい気持ちがあった	他の人が手助けすると思った	手助けの方法が分からなかった	自分一人では無理だと思った	手助けをしてよいものかどうかわからなかった	手助けしにくかった	その他	無回答
総数	100.0 (305)	18.0	6.6	13.1	6.6	13.1	8.5	46.2	2.6	22.0	3.3
男	100.0 (178)	19.1	6.2	12.9	7.3	12.4	6.7	<u>46.6</u>	2.2	20.2	2.8
20～29歳	100.0 (16)	12.5	－	25.0	18.8	6.3	－	43.8	－	31.3	－
30～39歳	100.0 (25)	40.0	4.0	24.0	12.0	12.0	4.0	52.0	4.0	8.0	8.0
40～49歳	100.0 (33)	30.3	9.1	9.1	3.0	12.1	3.0	48.5	－	18.2	－
50～59歳	100.0 (51)	19.6	2.0	9.8	7.8	15.7	3.9	49.0	3.9	19.6	2.0
60～69歳	100.0 (20)	5.0	10.0	20.0	5.0	15.0	15.0	55.0	5.0	20.0	－
70～79歳	100.0 (22)	4.5	9.1	4.5	－	13.6	9.1	36.4	－	22.7	9.1
80歳以上	100.0 (11)	－	18.2	－	9.1	－	27.3	27.3	－	36.4	－
(再掲)65歳以上	100.0 (47)	4.3	12.8	6.4	4.3	12.8	14.9	40.4	2.1	23.4	4.3
女	100.0 (127)	16.5	7.1	13.4	5.5	14.2	11.0	<u>45.7</u>	3.1	24.4	3.9
20～29歳	100.0 (16)	37.5	－	25.0	12.5	25.0	－	68.8	－	18.8	6.3
30～39歳	100.0 (24)	12.5	8.3	16.7	8.3	25.0	4.2	58.3	8.3	8.3	－
40～49歳	100.0 (21)	14.3	4.8	14.3	4.8	9.5	－	33.3	－	38.1	9.5
50～59歳	100.0 (25)	28.0	－	12.0	4.0	12.0	－	44.0	4.0	28.0	4.0
60～69歳	100.0 (16)	6.3	6.3	12.5	－	18.8	12.5	43.8	－	25.0	－
70～79歳	100.0 (13)	7.7	23.1	7.7	7.7	－	30.8	46.2	7.7	30.8	7.7
80歳以上	100.0 (12)	－	16.7	－	－	－	58.3	16.7	－	25.0	－
(再掲)65歳以上	100.0 (35)	5.7	17.1	5.7	2.9	5.7	37.1	34.3	2.9	22.9	2.9

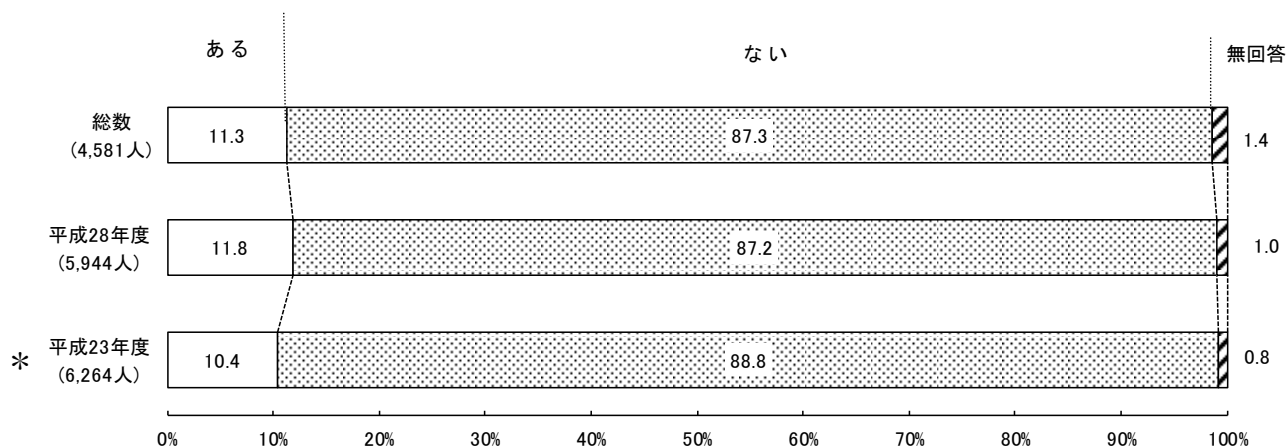
2 外出先で誰かの手助けを必要と感じた経験

(1) 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－過去調査との比較

「外出時に誰かの手助けを必要と感じたことがある」人の割合は、約1割

過去1年くらいの間に、外出の際、誰かの手助けを必要としたことがあるかを聞いたところ、「ある」人の割合は11.3%で、約1割となっている。(図Ⅱ-7-13)

図Ⅱ-7-13 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－過去調査との比較



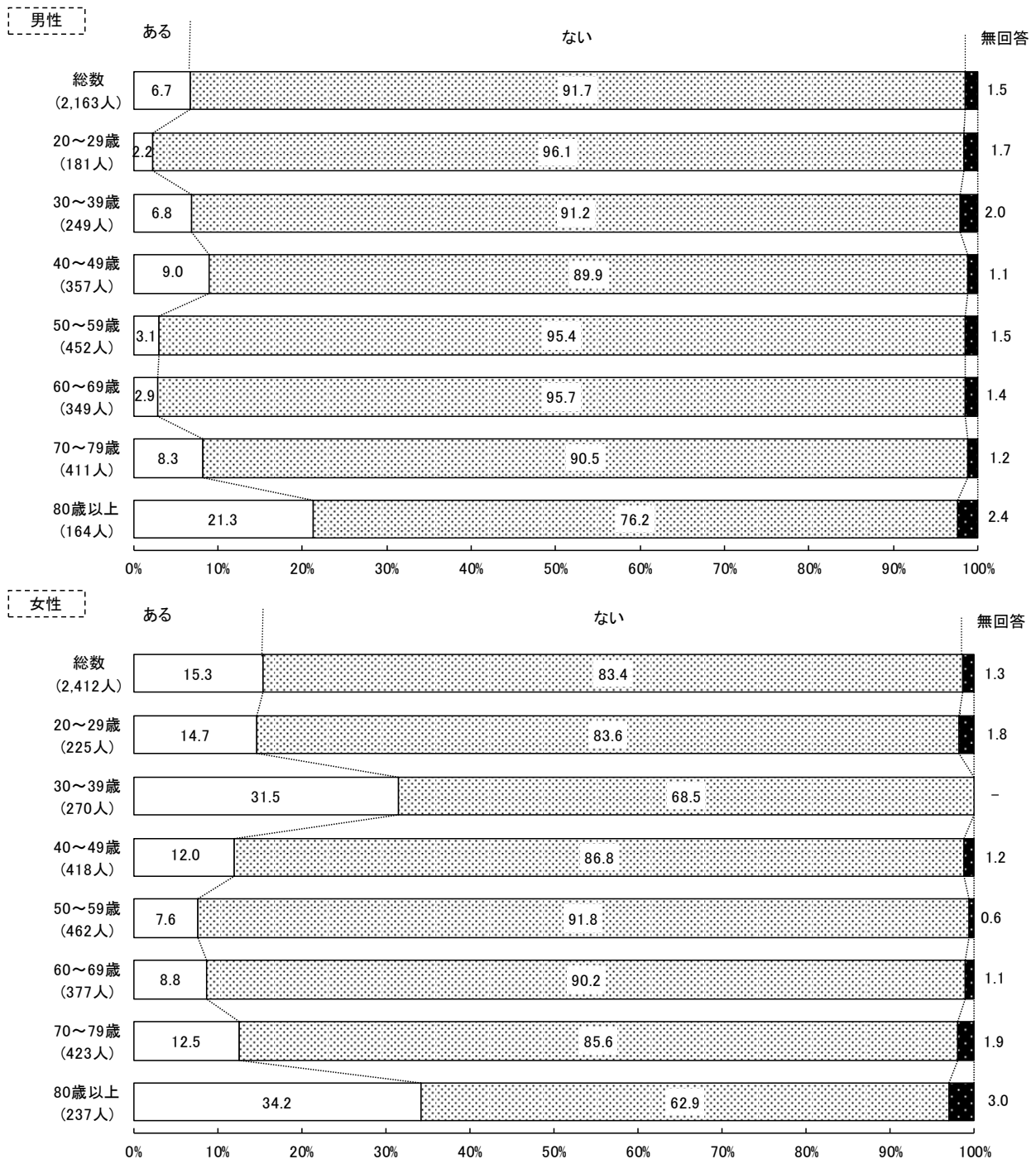
ア 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無一性・年齢階級別

「外出時に誰かの手助けを必要と感じたことがある」人の割合は、1割

外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を性別でみると、「ある」の割合は、男性 6.7%、女性 15.3%で、女性の方が 8.6 ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、30代では、「ある」の割合が、男性 6.8%、女性 31.5%で、女性の方が 24.7 ポイント高くなっている。(図Ⅱ-7-14)

図Ⅱ-7-14 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無一性・年齢階級別

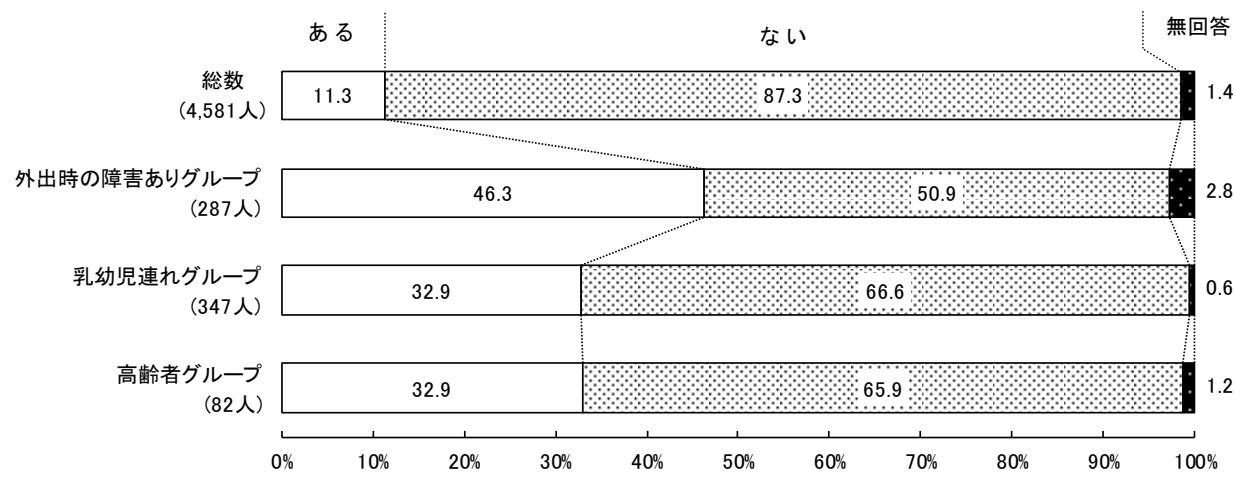


イ 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別

「外出時の障害ありグループ」では「ある」の割合は、46.3%

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」では、「ある」の割合が 46.3%で、総数（11.3%）に比べて 35.0 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-7-15）

図Ⅱ-7-15 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別



ウ 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

－外出時の障害別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

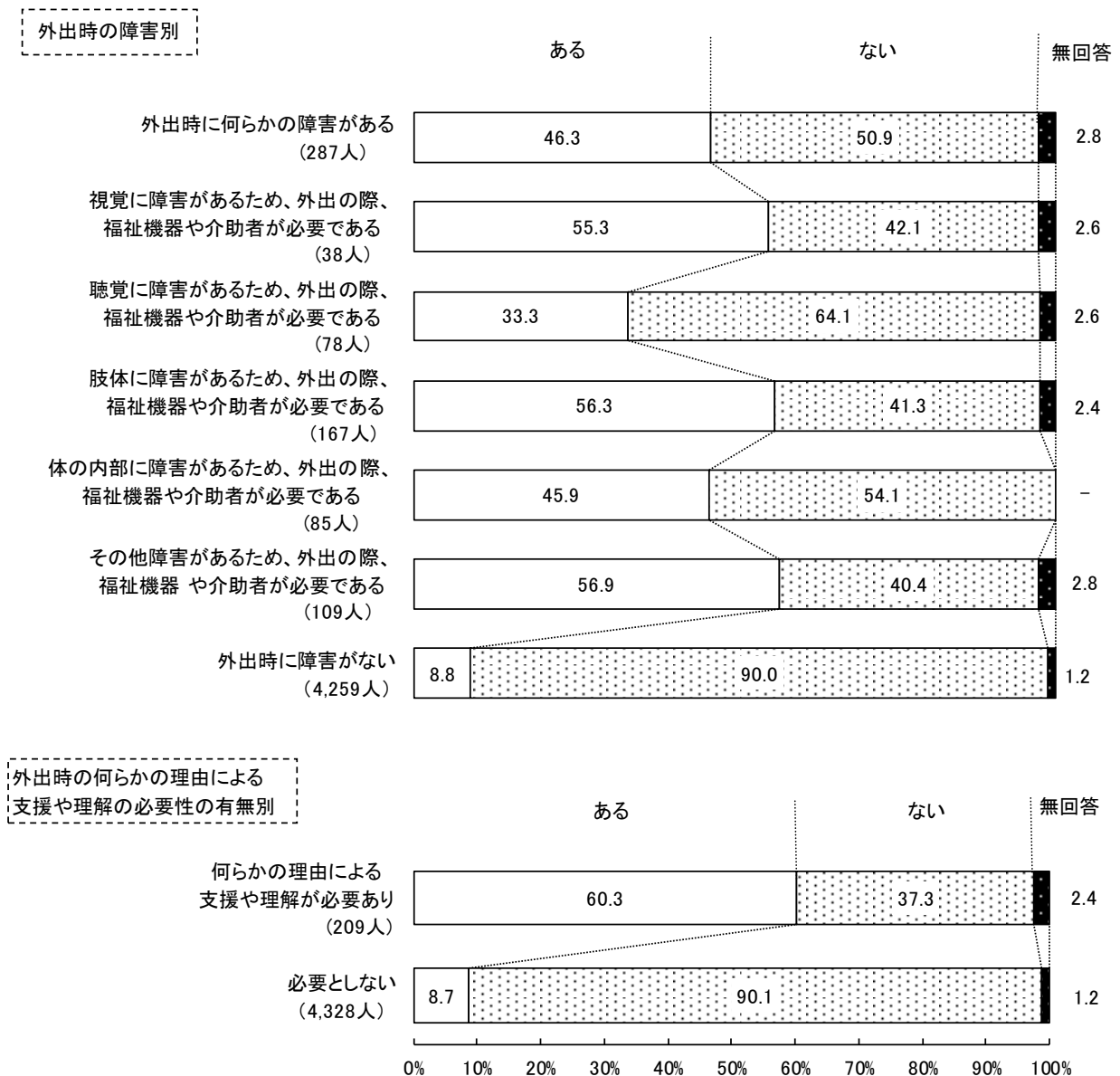
視覚、肢体、その他に障害がある人では、「ある」の割合は、5割以上

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時の障害別にみると、「ある」の割合は、視覚、肢体及びその他の障害がある人では、5割以上（55.3%～56.9%）となっている。

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由により外出の際、支援や理解の必要がある人は、「ある」の割合が60.3%となっている。（図Ⅱ-7-16）

図Ⅱ-7-16 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

－外出時の障害別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別



(2) 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

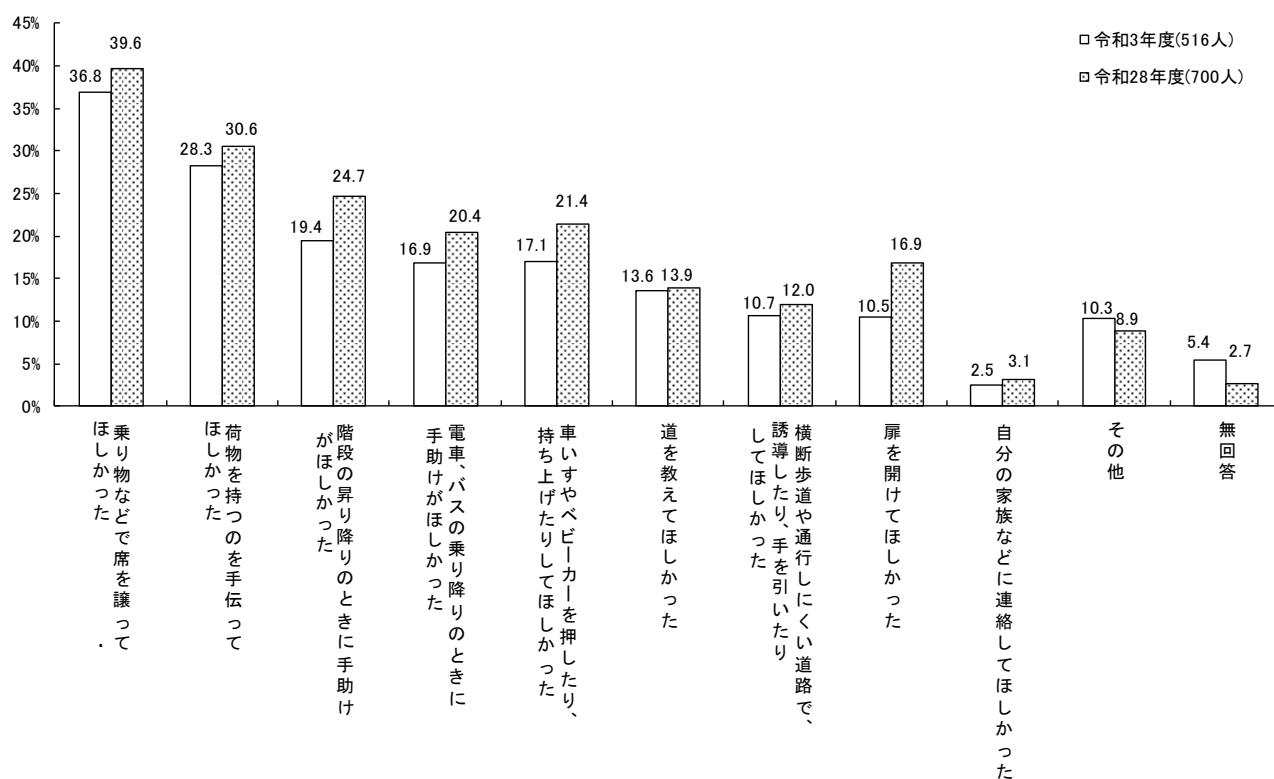
ー平成 28 年度調査との比較

「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が最も高い

過去 1 年間くらいの間に、外出の際、誰かの手助けを必要としたことがある人 (516 人) に、どのような手助けが必要だったか聞いたところ、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が 36.8%で最も高く、次いで、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」が 28.3%となっている。(図Ⅱ-7-17)

図Ⅱ-7-17 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

ー平成 28 年度調査との比較



ア 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

一性・年齢階級別

「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が最も高い

誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容を性・年齢階級別にみると、男女とも「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が最も高く（男性 34.2%、女性 37.8%）、次いで、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」（男性 20.5%、女性 31.4%）となっている。

30代の女性では、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が 48.2%で最も高く、次いで、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった」が 44.7%となっている。

また、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合は、65歳以上では、男性 34.2%、女性 43.1%で、女性の方が 8.9 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-7-3）

表Ⅱ-7-3 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	荷物を持つのを手伝ってほしかった	横断歩道や通行しにくい道路で、誘導した	階段の昇り降りのときに手助けがほしかった	電車、バスなどの乗り降りのときに手助けがほしかった	車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった	乗り物などで席を譲ってほしかった	道を教えてほしかった	扉を開けてほしかった	自分の家族などに連絡してほしかった	その他	無回答
総数	100.0 (516)	<u>28.3</u>	10.7	19.4	16.9	17.1	<u>36.8</u>	13.6	10.5	2.5	10.3	5.4
男	100.0 (146)	<u>20.5</u>	12.3	21.9	17.8	16.4	<u>34.2</u>	15.8	11.6	4.8	8.9	8.9
20～29歳	100.0 (4)	-	-	-	-	-	25.0	-	25.0	25.0	-	25.0
30～39歳	100.0 (17)	5.9	-	11.8	11.8	29.4	47.1	5.9	23.5	-	11.8	11.8
40～49歳	100.0 (32)	15.6	18.8	12.5	18.8	18.8	31.3	25.0	15.6	6.3	6.3	9.4
50～59歳	100.0 (14)	7.1	14.3	35.7	28.6	14.3	21.4	14.3	14.3	-	7.1	14.3
60～69歳	100.0 (10)	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	30.0	20.0	-	10.0	10.0	10.0
70～79歳	100.0 (34)	35.3	5.9	23.5	11.8	8.8	41.2	11.8	11.8	2.9	11.8	2.9
80歳以上	100.0 (35)	25.7	20.0	34.3	25.7	17.1	31.4	17.1	2.9	5.7	8.6	8.6
(再掲)65歳以上	100.0 (73)	31.5	13.7	27.4	17.8	15.1	<u>34.2</u>	15.1	6.8	4.1	11.0	5.5
女	100.0 (370)	<u>31.4</u>	10.0	18.4	16.5	17.3	<u>37.8</u>	12.7	10.0	1.6	10.8	4.1
20～29歳	100.0 (33)	15.2	12.1	9.1	6.1	24.2	36.4	12.1	9.1	3.0	12.1	6.1
30～39歳	100.0 (85)	27.1	1.2	11.8	17.6	<u>44.7</u>	<u>48.2</u>	8.2	21.2	-	8.2	1.2
40～49歳	100.0 (50)	30.0	10.0	12.0	10.0	14.0	24.0	20.0	4.0	2.0	12.0	4.0
50～59歳	100.0 (35)	28.6	8.6	8.6	11.4	2.9	17.1	14.3	14.3	-	22.9	11.4
60～69歳	100.0 (33)	45.5	6.1	27.3	9.1	3.0	24.2	18.2	6.1	3.0	9.1	3.0
70～79歳	100.0 (53)	24.5	3.8	18.9	20.8	-	49.1	15.1	1.9	-	7.5	5.7
80歳以上	100.0 (81)	43.2	24.7	33.3	25.9	11.1	43.2	8.6	7.4	3.7	9.9	2.5
(再掲)65歳以上	100.0 (153)	37.9	14.4	28.1	20.9	5.9	<u>43.1</u>	11.8	5.2	2.0	9.2	3.3

イ 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

ー外出時グループ別

高齢者グループは、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」の割合が高く、4割

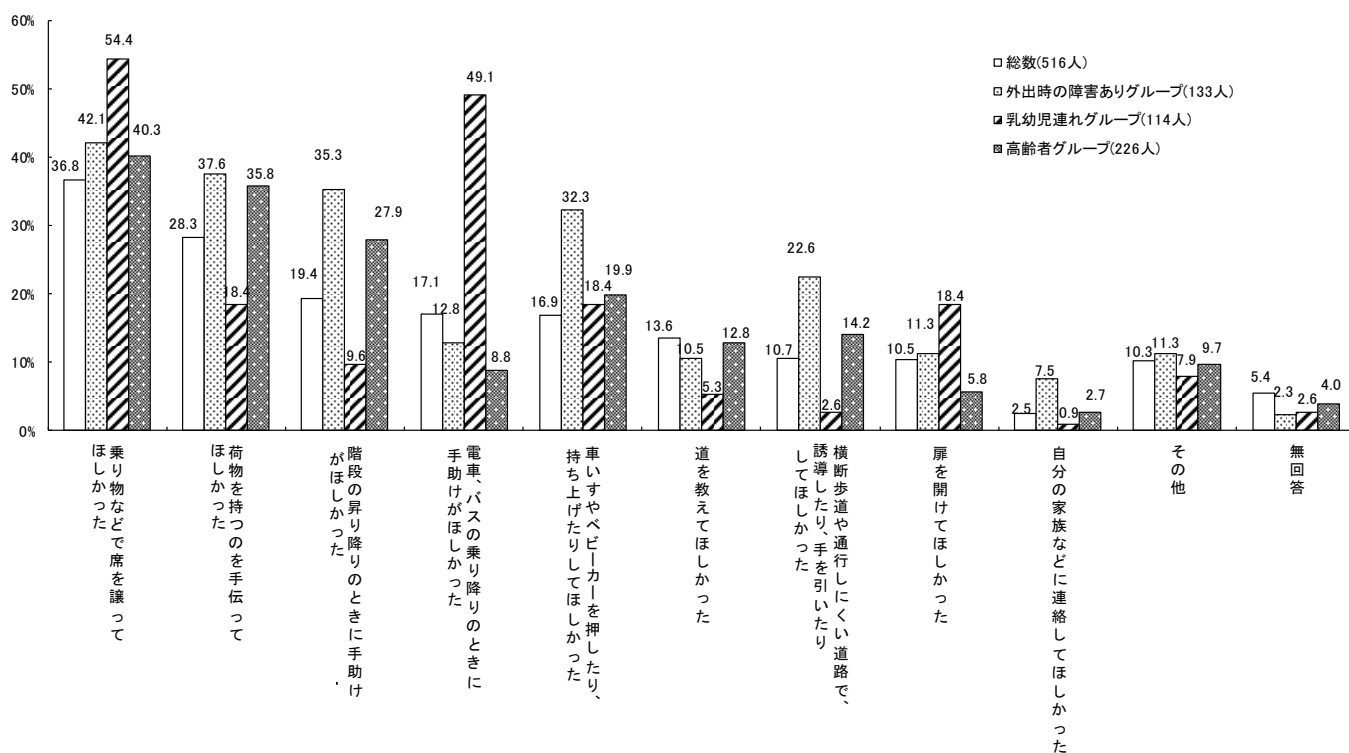
必要とした手助けの内容を外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループでは、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が42.1%で最も高く、総数と比べて5.3ポイント高くなっている。

乳幼児連れグループでは、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が54.4%で最も高く、次いで「電車、バスの乗り降りのときに手助けがほしかった」が49.1%となっている。

高齢者グループでは、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が40.3%で最も高く、次いで「荷物を持つのを手伝ってほしかった」の割合が35.8%となっている。（図Ⅱ-7-18）

図Ⅱ-7-18 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

ー外出時グループ別



ウ 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の障害別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

必要とした手助けの内容を外出時の障害の有無別にみると、視覚及び体の内部に障害がある人では、「電車、バスの乗り降りのときに手助けがほしかった」の割合がそれぞれ 57.1%、38.5%で最も高くなっている。聴覚に障害がある人では、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合がともに 42.3%で最も高くなっている。肢体に障害がある人では、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合がともに 39.4%で最も高くなっている。(表Ⅱ-7-4)

表Ⅱ-7-4 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の障害別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

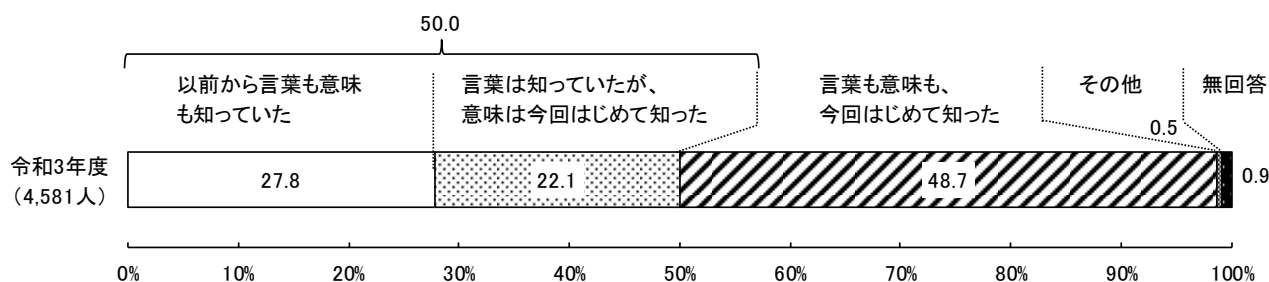
		総数	荷物を持つのを手伝ってほしかった	横断歩道や通行しにくい道路で、誘導	階段の昇り降りのときに手助けがほしかった	電車、バスの乗り降りのときに手助けがほしかった	車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった	乗り物などで席を譲ってほしかった	道を教えてほしかった	扉を開けてほしかった	自分の家族などに連絡してほしかった	その他	無回答
総数		100.0 (516)	28.3	10.7	19.4	16.9	17.1	36.8	13.6	10.5	2.5	10.3	5.4
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (133)	37.6	22.6	35.3	32.3	12.8	42.1	10.5	11.3	7.5	11.3	2.3
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (21)	38.1	33.3	47.6	<u>57.1</u>	14.3	23.8	23.8	14.3	14.3	9.5	4.8
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (26)	23.1	23.1	<u>42.3</u>	30.8	15.4	<u>42.3</u>	11.5	11.5	3.8	15.4	-
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (94)	<u>39.4</u>	22.3	36.2	31.9	17.0	<u>39.4</u>	9.6	14.9	8.5	9.6	2.1
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (39)	33.3	17.9	30.8	<u>38.5</u>	20.5	30.8	7.7	12.8	5.1	12.8	2.6
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (62)	40.3	30.6	48.4	45.2	14.5	48.4	16.1	9.7	9.7	9.7	1.6
	外出時に障害がない	100.0 (375)	25.3	6.1	14.1	11.5	18.7	35.2	14.9	10.4	0.8	10.1	6.4
の由外 必に出 に要時 性のの 支何 援ら やか 無理 別解 理	何らかの理由による支援や理解が必要あり	100.0 (126)	34.9	19.0	31.0	31.7	16.7	41.3	13.5	12.7	6.3	14.3	4.0
	必要としない	100.0 (375)	26.1	7.7	16.0	11.7	17.9	35.5	13.9	10.1	1.3	9.1	5.9

3 心のバリアフリーの認知度

「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、5割

「心のバリアフリー」という言葉や意味を知っているか聞いたところ、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、50.0%となっている。一方、「言葉も意味も、今回はじめて知った」の割合は、48.7%となっている。(図Ⅱ-7-19)

図Ⅱ-7-19 心のバリアフリーの認知度



(注)心のバリアフリーについて、調査票では下記のとおり言葉の意味を案内している。

心のバリアフリーとは…

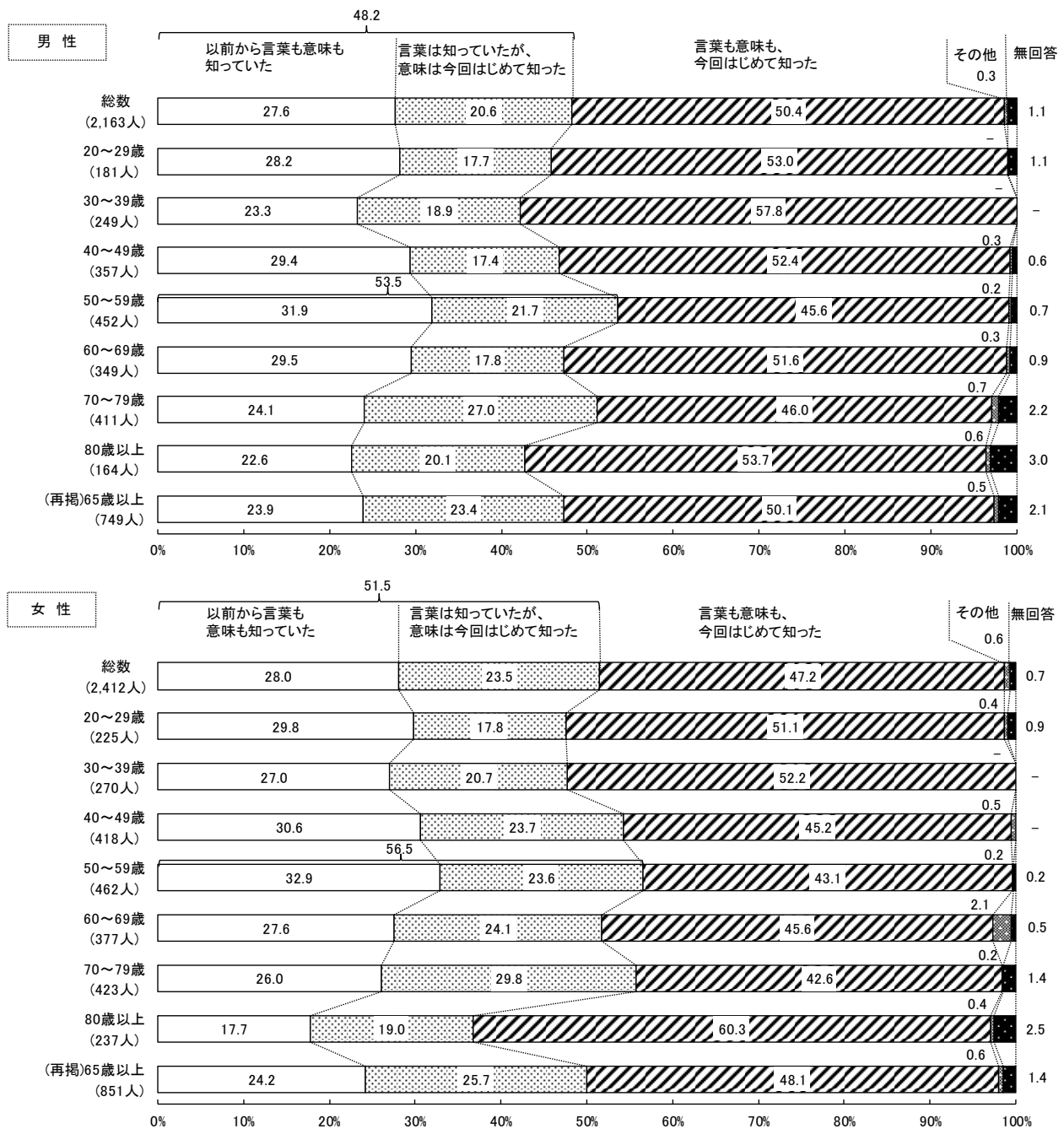
誰もが円滑に移動し、様々な活動を楽しめるまちづくりを進めるため、全ての人
が平等に参加できる社会や環境について考え、必要な行動を続けることです。

(1) 心のバリアフリーの認知度－性・年齢階級別

「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、男女ともに50代が最も高い。

心のバリアフリーの認知度を性別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、男性は48.2%、女性は51.5%となっている。性・年齢階級別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、男女ともに50代が最も高く、男性53.5%、女性56.5%で5割を超えている。(図Ⅱ-7-20)

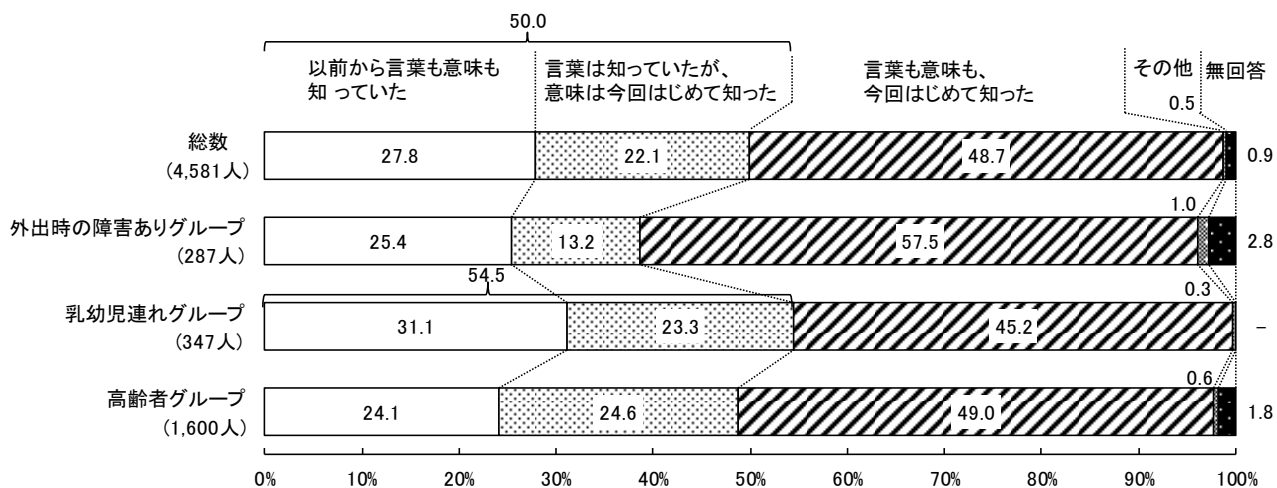
図Ⅱ-7-20 心のバリアフリーの認知度－性・年齢階級別



（２）心のバリアフリーの認知度－外出時グループ別

心のバリアフリーの認知度を外出時グループ別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は、「乳幼児連れグループ」が最も高く 54.5%で、総数（50.0%）に比べて、4.5 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-7-21）

図Ⅱ-7-21 心のバリアフリーの認知度－外出時グループ別



4 心のバリアフリーの推進のために効果的だと思う取組〔複数回答〕

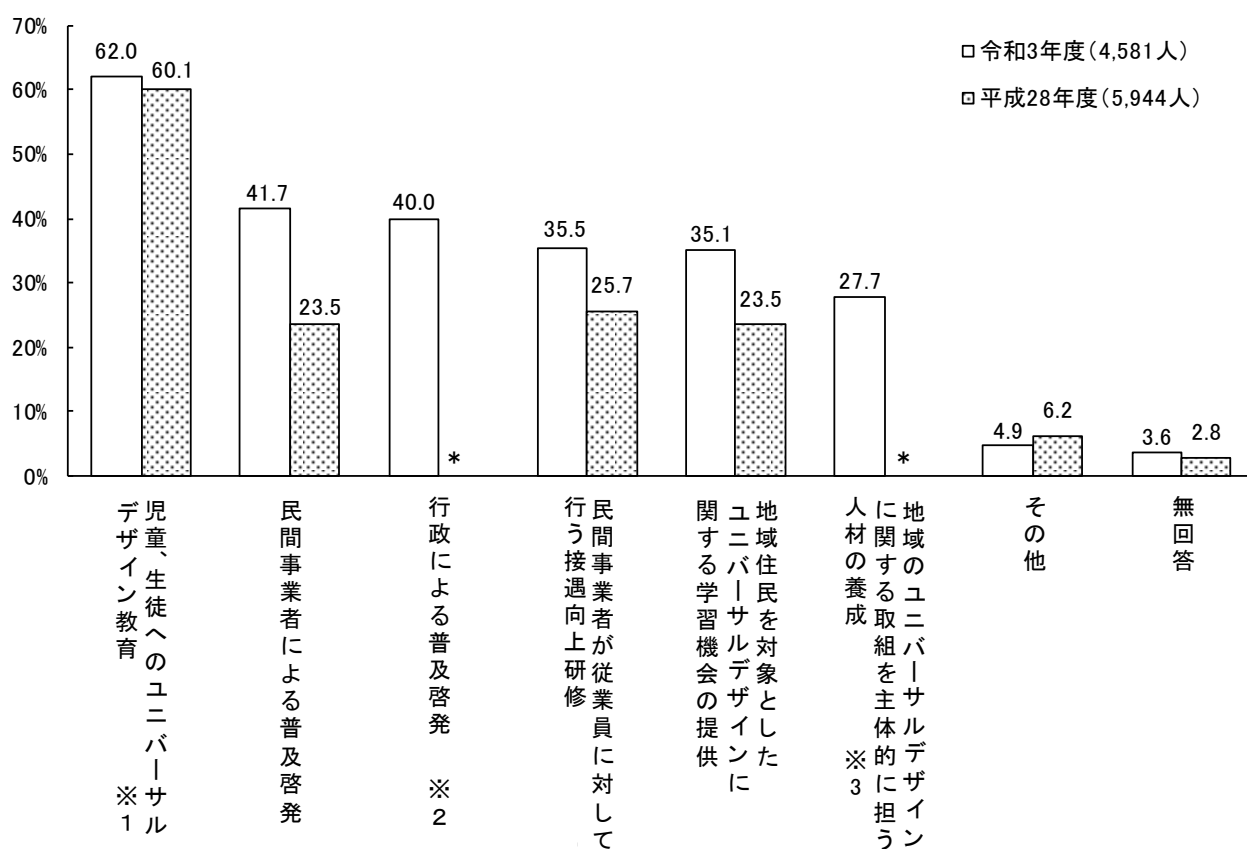
ー平成 28 年度調査との比較

「児童、生徒へのユニバーサルデザイン教育」が最も高く、62.0%

心のバリアフリーの実現のため、効果的だと思う取組について聞いたところ、「児童、生徒へのユニバーサルデザイン教育」の割合が 62.0%で最も高く、次いで「民間事業者による普及啓発」が 41.7%となっている。（図Ⅱ-7-22）

図Ⅱ-7-22 心のバリアフリーの推進のために効果的だと思う取組 〔複数回答〕

ー平成 28 年度調査との比較



（注 1）※1は、平成 28 年度調査では「学校でのユニバーサルデザイン教育」としていた。

（注 2）※2、3は、平成 28 年度調査では選択肢を設けていなかった。

(1) 「心のバリアフリーに向けた取組の強化」の目指すべき将来像の実現のため、

効果的だと思う取組〔複数回答〕—性・年齢階級別、地域別

男女ともに「児童、生徒へのユニバーサルデザイン教育」の割合が最も高い

心のバリアフリーの実現のため、効果的だと思う取組を性・年齢階級別にみると、男女ともに「児童、生徒へのユニバーサルデザイン教育」の割合が最も高く（男性 59.1%、女性 64.6%）、次いで、男性は「行政による普及啓発」が 42.5%、女性は「民間事業者による普及啓発」が 42.5%となっている。（表Ⅱ-7-5）

表Ⅱ-7-5 「心のバリアフリーに向けた取組の強化」の目指すべき将来像の実現のため、

効果的だと思う取組〔複数回答〕—性・年齢階級別、地域別

		総 数	デ ザ イン、 生 徒 へ の ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イン 教 育	ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イン に 関 する 学 習 機 会 の 提 供	地 域 住 民 を 対 象 と し た に	人 材 の 養 成	地 域 の ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イン に 関 する 取 組 を 主 体 的 に 担 う	民 間 事 業 者 が 従 業 員 に 対 して 行 う 接 遇 向 上 研 修	民 間 事 業 者 に よ る 普 及 啓 発	行 政 に よ る 普 及 啓 発	そ の 他	無 回 答
総 数		100.0 (4,581)	62.0	35.1	27.7	35.5	41.7	40.0	4.9	3.6		
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (2,163)	59.1	34.3	27.7	32.8	40.8	42.5	5.3	3.4		
	20～29歳	100.0 (181)	65.2	26.5	21.0	30.9	42.0	30.4	3.9	2.8		
	30～39歳	100.0 (249)	65.5	28.9	23.3	39.4	39.4	37.3	8.4	0.8		
	40～49歳	100.0 (357)	59.1	32.2	24.6	32.5	40.6	42.3	5.0	2.5		
	50～59歳	100.0 (452)	64.2	37.2	26.8	37.8	45.8	46.0	4.9	0.9		
	60～69歳	100.0 (349)	60.5	38.4	31.8	33.5	38.4	45.0	4.9	3.2		
	70～79歳	100.0 (411)	51.6	37.2	33.3	27.7	38.9	43.6	4.6	6.1		
	80歳以上	100.0 (164)	45.1	31.1	28.0	22.6	38.4	47.0	6.7	11.0		
	(再掲) 65歳以上	100.0 (749)	51.5	35.8	31.6	27.6	38.6	44.9	5.5	6.7		
	女	100.0 (2,412)	64.6	35.9	27.7	37.9	42.5	37.6	4.4	3.7		
	20～29歳	100.0 (225)	67.1	28.4	23.6	36.0	36.0	25.3	4.0	2.7		
	30～39歳	100.0 (270)	76.3	34.8	30.4	44.8	51.5	33.3	4.4	0.7		
	40～49歳	100.0 (418)	71.3	35.4	25.8	44.0	45.7	40.2	5.0	1.7		
	50～59歳	100.0 (462)	75.3	35.9	26.6	43.7	44.4	37.9	4.5	1.1		
	60～69歳	100.0 (377)	62.3	43.5	32.6	38.2	40.3	44.0	4.5	2.9		
	70～79歳	100.0 (423)	53.2	36.9	28.1	29.1	41.8	38.8	2.6	6.1		
	80歳以上	100.0 (237)	40.5	30.8	25.7	24.9	33.3	36.7	6.8	13.9		
	(再掲) 65歳以上	100.0 (851)	51.1	37.3	29.4	29.6	38.3	38.9	3.9	7.8		
地 域 別	区 部 計	100.0 (3,054)	61.8	34.5	27.1	35.3	40.7	39.2	5.4	3.4		
	市町村部 計	100.0 (1,527)	62.5	36.3	28.9	35.8	43.6	41.6	3.9	4.0		